

時事新報

社告

時事新報社事務部... 東京市市中御... 住居比御方を... 金員當方より... 其代りに毎日... 相切可申期日... 税と御拂調... 時事新報社... 成下度候

做毒ノ蔓延ヲ防止スベシ

做毒ノ蔓延ヲ防止スベシ... 一身ヲ毀損スルノミナラズ... 漸次公衆ノ間ニ蔓延シ... 其ノ身體愈々弱トナリ... 畫ヲ定ムルハ亦經世ノ... 願シテ公衆ノ健全ヲ得...

做毒ノ蔓延ヲ防止スベシ

做毒ノ蔓延ヲ防止スベシ... 我邦ニ於テモ娼妓做毒... 改良シ急務ニ加フル有... 潤ラスニ至ルヤ疑フ可... 主要スルハ勿論ニシテ... 時ニ或ハ充分ノ準備ヲ... 離レ公衆衛生ノ爲メニ... ズ荷モ金ヲ費シテ...

做毒ノ蔓延ヲ防止スベシ

做毒ノ蔓延ヲ防止スベシ... 明治十六年中審視做毒... 品川新宿千住、板橋ノ... ナリト  
検査度數 三三三 検査員 八五七  
受檢娼妓總數一四二、九〇八 有毒者 二、〇八五  
右十二箇月間ノ合計ニシテ有毒者ハ娼妓百人中一、四五  
八〇當ル又同年中新規娼妓人身體検査人員ハ五百十四  
人ニシテ此内有毒者ハ三十三人ナリ即チ百人中六、四二  
ニ當ル此新規娼妓ノ有無ハ常ニ娼妓ヨリモ多クシテ明  
治十一年ヨリ同十五年迄五箇年間ノ總計ハ左ノ如クニ  
娼妓ハ舊娼ヨリ多キヲ實ニ十倍ナリトス  
検査度數 有毒者 百分比  
娼妓 六三五六四一 八二七四 一二八五  
新娼 三、九六四 四六〇 一一六〇四  
又明治十五、六年檢做比較并患者治療日數比較ハ左ノ如ク  
年度 検査員數 有病人院患者 有毒者百分比  
十五年 一三七、六〇七 一五三二 一八二一

十六年 一四二、九〇八 二、〇八五 内咽患者 一八、四八  
比較 (増) 五、三〇一 五五四 〇人三、四八  
患者總數 治療日平均 入院患者 百分比  
十五年 一、七三二 三十四日〇九八 九人二九五  
十六年 二、三三四 二十九日〇八八 七人九六七  
比較 (増) 五〇二 (減) 五日〇一〇 (減) 二人三二八  
右ニ掲グル如ク患者ノ總數ハ十五年度ヨリ十六年度ニ於  
テ其超過スルコト五〇二八ナリ是ハ検査總員ヲ増シタル  
ニ因ルモノニシテ其有毒者ノ割合前年ヨリ多キヲ、四八  
ナリ是レ亦検査法ヲ改良シテ精密ニ加ヘタルヲ以テ有  
者ヲ發見スル體トシテガ故ナランカレバ前年ニ於テハ實  
ニ有毒者ノ少キコトアラズ尙ホ嚴密ニシテモナルヲ徵  
スルニ足ル可キ且夫レ一日平均數ヲ百分比例スレバ十六  
年度ニ於テハ治療日數一人ニ付五日〇一〇ニ減シ滯  
院患者モ一人三二八ニ減シ是レ至ラザルニ至リテ全  
勢未ダ極ナラザルコト先十早ク入院治療セシムルヲ以テ全  
治退院ニ至ルノ日モ亦速ナレバナリ其功頗ル大ナルヲ  
見ルニ足レリ

以上諸表ニ掲グル如ク東京做毒病院ノ實際上ニ於テモ既ニ  
其功驗ノ見ル可キモノアレバ益シテ改良シテ急務ニ加  
クスルヲ以テ要ナリトス然レモ前モ云ヘル如ク此法ヲ  
改良スルニハ醫員モ増サシムル可ク設備モ充分ニセザル可  
クテ隨テ其費用モ亦多ク要スルコトニシテ實財ノ出處如何ト  
ノ點モアラナレバ幸ニシテ愛ニ娼妓賦金ナルモノアリテ  
財源ニ乏シカラザルナリ現ニ東京府下ノ如キハ賦金ノ高毎  
年五萬餘圓ニ下ラズ即チ貸座敷、娼妓引手茶屋等ヨリ徵收  
スル所ニシテ官廳特ニ之ヲ地方税目ノ外ニシタルモノナレ  
バ今其趣意ニ從ヒ之ヲ全ク別途金ト爲シテ娼妓ノ身體ヲ  
保護シ隨テ世上一般ノ病害ヲ驅除スルノ費ニ使用スルハ誠  
ニ適當ニシテ差支ナキコト信ズ元來地方ニ於テ道路、橋梁、  
衛生、病院、警察、救育等ノ費用ハ公ニ登リテ公議ス  
ルモノナレバ偶然娼妓ノ賦金アレバトテ之ヲ流用スルニ及  
ハズ娼妓ノ賦金ハ之ヲ娼妓ニ用ルコト穩當ナレ在昔徳川政  
府ノ時代ニ不淨金ヲ道路橋梁等ニ用ケタル例モアレバ娼妓  
ノ賦金モ之ヲ一種ノ不淨金ト視做シテ他ノ公共ノ用ニ供ス  
ルモ妨ナキガ如クナレバ現ニ其不淨金ノ由テ生スル娼妓ノ  
身體ニ付キ金ヲ要スル事アレバ身ヨリ生スルモノヲ以テ其  
身ノ爲ニシテ又隨テ世ノ爲ニシテスルノ趣意ヲ以テ先ツ其賦金ノ  
全額ヲ舉ケテ做毒検査ノ費ニ供シ検査法遺傳ナキ程ニシテ  
尙殘額ヲ見ルコトモアラバ乃チ之ヲ他用ニ充ルモ可ナラン  
若シモ然ラザルハ娼妓社會ハ未ダ自家ノ災害ヲ救ハズシ  
テ他ノ公用ニ加勢スルモノト云フ可ク加勢スルモノ、難症  
ハ勿論、加勢ヲ受ルモノモ亦聊カ不愉快ノ意味ナキニ非ザ  
ル可シ

次ニ做毒ノ蔓延ヲ防止スベシハ病患隱蔽ノ風ヲ除クニ在リ  
蓋シ此病毒ノ恐ル可キハ昔ハ人ノ知ル所ナリト雖モ之ヲ恥ツ  
ルノ念深クシテ糞合ヒ糞ニ感染スルモ勉メテ之ヲ隱蔽シテ

早ク治療スルコトニ注意セズ少シク恥テ忍ビズシテ大ニ患テ  
靡スニ至ル亦一般ノ人情ナリ前ニモ掲グル如ク新規娼妓ノ  
娼妓ニ有毒者ノ比例甚ク多クシテ娼妓ニ十倍スルモノハ  
實地検査ノ日ニ臨ム迄ハ先ツ之ヲ隱蔽シテ治療ヲ求メザル  
ニ依ルモノナラン固ヨリ此新娼ハ既ニ已ニ私窩子ノ類ニシ  
テ做毒蔓延ノ地ヨリ出タル者モ多クナラント雖モ尋常ノ家門  
ニ育セラレタル婦女モ相半スル其數ニ於テ有毒ノ比例ノ斯  
ノ如クナルハ毒源必ズシモ遊廓ノミニアラズ世間一般其發  
延ヲト知ス可シ醫師ノ言ヲ聞クニ做毒ノ性質固ヨリ險惡ナ  
リト雖モ時ニ及テ治療ヲ施セバ治ス可ラザルノ病ニ非ズ唯  
其禍ノ大ナルハ治療ヲ忘ルルニ在リト云フ人文既ニ高尚ニ達  
シタル我日本國ノ如キハ人々皆私徳ヲ重シテ操業ノ行ヲ  
慎ムコト甚ク嚴重ナルノ風ヲ成シタルガ故ニ下部ノ病ト云  
ハ男女ヲ論セズ之ヲ口ニスルコトモ羞テ殊ニ婦人ノ如キハ  
仮令病患ノ苦メヲモ陰部ヲ示スハ恰モ操行ヲ破ルルノ感  
ヲ爲スモノアリ大ナル見解ナレバ之ヲ如何トモス可ラズ唯  
今日ノ肝要ハ醫師ノ方便ヲ以テ患者并ニ家族ノ人ヲ説諭シ  
又一方ニ病ヲ隱蔽スルノ大害ナル所以ヲ江湖ニ辨明シテ  
次第ニ其習慣ヲ成サシムルニ在ルニシテ此邊ノ事ハ簡單ナル  
醫術ノ巧拙ニアラズシテ寧ろ醫略ノ方寸ニ存スルモノト云  
フモ可ナラン

佛清事件

○東京戰報 東京地方にて佛清戰闘の事に關しては是迄種  
々の説も有りしが一昨夜東京の或る方へ達したる電報の左  
の如くなりし

十月十二日午前十一時五分上海發  
右の報に依れば即松地方より於ても急佛清交戦と爲したるも  
のを見ゆ又一説は其戰争の十月九日の事にして土地は臨  
山の近傍ケエと云ふ處なり且佛軍は清兵の郎松に逼れ歸  
る路を絶ちちりと云ひ又はより先き數日屢々交戦し前後清  
兵死する者殆んど四千八ありと未だ孰れか信確なるを  
ふざれと附記して後報と待つ

○佛國內閣の會議 去月十三日巴黎發の報に今日據て告示  
ありし如く内閣の會議ありて清國と戰争ト事ヲ討議せり其  
席にて首相フェリイ氏は明に支那は未だ開戦と布告せずと  
の旨を述べ海軍卿ヒロン氏は水師提督クルベ氏より遂  
りたる公文を讀上げしが其文意は援兵並に糧食の到着次第  
再び攻撃を始むべしとの趣なり此會議にてハ支那事件の  
外は何の討議もなく又彼の議院の臨時會議を開くの問題は  
來る二十三日に開くべき内閣會議にて決定する筈なり云々  
又同日龍動發報は確かたる筋より聞く處に據るに今日  
の佛國內閣會議は甚だ騒々會議にて數名の人々は直に  
議院の臨時會議を開くべき旨をフェリイ氏に勧め永く今日

の如き政策に依り  
争わらんとて  
開きて明に佛國  
ニリト氏は其  
てハ地方の人  
も感ぜざる程  
者の育入處を  
べしと雖も決  
れクルベ氏  
を喚起する  
明かなる人々  
一番にしたる  
するに至らざ  
と人民は斷へ  
の新聞中には  
兩國の間に談  
は誠を爲とも  
○佛國の聯合  
打立てんとす  
望と達せしめ  
る旨と佛政  
今又佛國新  
りよ是迄獨逸  
り云ふ右よ  
佛國の同盟は  
フランセイ新  
同盟果して成  
云々と記せ  
に拘りず其  
○佛國新聞の  
聞は龍動タイ  
氏の處置と非  
を現はし或は  
せし事實を引  
なしと論せる  
の如きは故に  
○佛國の石炭  
ポンチセリ及  
設けざる由は  
印度知事  
の佛國新聞  
共ニ永石炭  
への如きはマ